

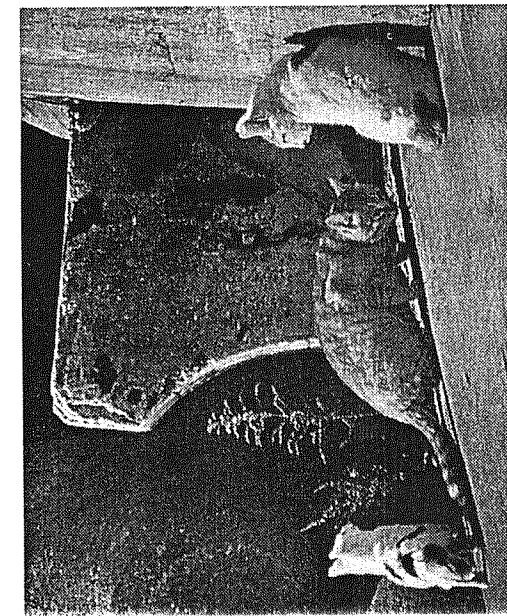
Stray cats - thrown away at harbor in Nishinomiya

平成3年(1991年)1月11日 金曜日

産経新聞

捨て猫 安楽死論争過熱

宮・西 香榎園浜



香榎園浜に住みついた捨て猫。「捨て犬・ねこを許さない」という看板があるのだが＝西宮市大浜町で

捨てられた猫を安楽死させるのは是非か。兵庫県西宮市の香榎園浜に住みついた百匹近い猫をめぐる激しい論争が起きている。「水もエサも満足にないところで生きることが、本当に幸せだろうか…」と動物愛護団体が獣医に依頼して薬物注射による安楽死に乗り出したことから、近くの動物好きの住民らが反発。最近では愛護団体の関係者宅に「家に火をつけてや」という脅迫電話がかかるほどエスカレートしている。この間にも捨てられる猫は増える一方、飼い主の義務を果たさず、猫を捨てる人間の身勝手さこそが問題なのだが…。

香榎園浜に捨て猫が目立ち始めたのは、三年ほど前から。付近にマンションが増え、入居者が、以前飼っていた猫の処分に関り捨てた猫の数が倍々増えている。

以来、香榎園浜はロケミで「猫捨て浜」と呼ばれるほど。今では約百匹もの猫が、防潮堤や消波ブロックのすき間をめぐらし、近所の猫好きのお年寄りや子どもたちがキャットフードなどを与えている。動物を虐待から守る活動を続けている日本動物福祉協会(神戸支部(神戸市))は、傷ついた捨て猫を救護し、新しい飼い主を探してきたが、あまりに増えすぎてもらい手もなく、「猫の本当の幸せを考えると」獣医に依頼して薬物注射してもらい安楽死させている。「私たちの中でも安楽死に対して賛否両論がある。私自身も猫が生きていることが一番いいと思いますが、生きるなら幸せでなければならぬ。満足なエサや水がないところで生きることが本当に猫にとって幸せかどうか」と同

愛護団体本当の幸せ考えなら／殺して何が動物愛護……住民反発

これに対し、付近の住民らは同支部のやり方に「野良猫でも生きていることが重要。殺して何が動物愛護だ」と強く反発。同支部員によると、住民とトラブルになったり、最近では自宅などに傷ついた猫を抱いにくると「火をつけたらか。殺したらか」となどという脅迫めいた電話がひんぱんにかかってくるという。同支部の世話役、松田早苗さんは「現状では、猫自身が被害者であると同時に、周辺の人に迷惑をかけているという点では加害者。本来、幸せに生きることが最も望ましいのですが、放置することができない。安楽死の道を選ばざるを得ない。猫を捨てる人も、捨てるのが主かす道につながっているという発想を改めてもらいたい」と話している。